

唯一無二の秋田から
米どころ米菓子を



2004年、米田賢吾氏の父(現会長)が秋田の特産品を扱う総合卸として設立。
2012年、初の自社ブランド商品「稲庭かりんとう」の製造・販売を開始。
その後も「淡雪ふわり」やプライベートブランド等で積極的に自社商品の製造を行う。
2019年6月に、潟上市天王に新工場および初の店舗となる「鼎庵(ていあん)」を新設した。

社運をかけた新事業へ

「父が50代後半で脱サラして、男鹿市の自宅の一角を事務所にして秋田県産品の卸を始めたんです。その時はまさか自分が継ぐことになるとは思いませんでした」。

屈託のない笑顔を見せるのは、同社代表取締役の米田賢吾さん。真新しい事務所は、今年6月に新設したばかりの「米菓匠 鼎庵本店」だ。連日、老若男女問わず多くの来客で賑わい、順風満帆な滑り出しを見せているが、ここまでの苦労は並大抵のものではなかった。

米田代表は大学卒業後、一般企業や飲食店の勤務を経て2012年に鼎家に入社。始めは父の事業を軽く手伝うつもりだったが、すぐに困難に直面することとなった。

「まずは自分の給料分くらいは稼がなければ何十社と飛び込み営業を行いました。ほとんどが門前払い。取り扱っていた商品はすでに流通しているものばかりで、新規取引に至ることはありませんでした」。



“決め手となる自社商品の開発が急務”

飽和状態の市場で同じ土俵で戦っているのは体力が減る一方だと、危機感を強く持った米田代表は自社商品の開発を決意。しかし、リスクも伴うことから、当代表だった父に反対され続けたものの、米田代表の情熱に押され、製造部門を任せられることとなった。

「土産品を扱う者として“秋田”の要素を全面に出したいと思いました。ヒントになったのは山形の旅館で目にした“そばかりんとう”です」。

アイデアを即実践し、自らの部屋で試作を繰り返す毎日。そして誕生した「稲庭かりんとう」は起死回生のヒット商品となった。

想いをカタチに 繋がる縁とともに

全国的な知名度を誇る秋田名物“稲庭うどん”に着目した新しいお菓子「稲庭かりんとう」は瞬間に、生産量が追いつかない程の人気商品となった。その勢いそのまま米田代表が次に挑んだのは“米菓”だ。

「秋田県は誰もが知る有名な米どころであるのに“米菓”が少ないと感じていました。米どころならではの新しい名物となる米菓を作りたいとずっと模索していました」。

米田代表の着眼点は確かなものだった。前職で物販や飲食業に携わった経験やつながりが実を結び誕生した米菓「淡雪ふわり」は再び鼎家のヒット商品となる。

「県外からの問い合わせも多かったですが、地元の方が何度も買ってくれたんです。自分はもちろん、従業員も開発や製造は手探りで試行錯誤の毎日でしたが、自分たちがつくったものを美味しいとってくれたのは嬉しかったです」。



売上は飛躍的に伸びたが、それでも小規模の設備や従業員数では限界があった。大口注文が入っても生産量を確保できず、資金繰りが追いつかない。2015年に自らが代表者に就任した頃は苦しい日々が続いた。

「引くも進むも出来ず、人生のどん底といってもいいくらいでした。正直何度も逃げたいとも思いました。でも不思議と、そんな時にこそ“人の縁”があるんです」。

苦しむ中で救いを求め、突き放されたこともあったが、同じ頃、長男が産まれた。子どものためにも諦めてはいけない。そう思ったとき、青年部の先輩が“一番苦しい時が一番楽しいんだ”と夜通し付き合い相談に乗ってくれた。様々な想いに傷つけられながらも、同時に救われた。

「色々な人に支えられて、もう覚悟を決めてやるしかない。改善計画書を作り、何度もブラッシュアップを重ねながら秋田銀行に持ち込み、背中を押してもらいました」。

強い意志と想いがカタチをつくる。「鼎庵」は、前を向いて突き進んだ米田代表の熱意そのものだ。



新たな拠点でブランド発信

受発注センターと製造工場、そして鼎家初となる店舗を備えた「鼎庵」によって実現した新たなスタート。新たなブランド名として、新商品の米菓にも同じ名を冠した。これまで以上に「秋田」にこだわり、県総合食品研究センターの協力を得ながら、開発した手焼きせんべいは、県産の味噌やしょうゆを使った発酵文化が盛んな秋田県ならではの商品となっている。さらに、これまで、1日800袋が限界だった主力商品の「淡雪ふわり」も、4,000袋までの製造が可能となったことで首都圏の大口注文にも対応できるようになり、さらなる販路拡大も視野に入れている。

「秋田市から潟上市に移転となりましたが、従業員が全員ついてきてくれたのは本当にありがたいです。今までは自分たちのイメージを伝える場所がなかったので、皆と一緒にここから新しい鼎家ブランドを発信していきたいと思っています」。

どんな時も地に足をつけ、前を向く。紡いできたのは人の縁と情熱。諦めない米田代表の挑戦は、「秋田」のをせてどこまでも続いていく。

- 1 県産味噌やしょうゆを使用。現在は銀・金・極の3種。
- 2 鼎家初の販売店。手焼きせんべいの他、様々な商品が並ぶ。
- 3 「鼎」は三本脚でしっかり立つ器のこと。新ブランド名にも用いている。
- 4 量産化できるようになった新工場でも手づくりの手間は惜しまない。



代表取締役
米田 賢吾

かなえや
有限会社鼎家
ていあん
鼎庵本店

〒010-0201
秋田県潟上市天王字上江川47-1203
TEL. 018-853-6676
FAX. 018-853-6769

創業 / 2004年
● 資本金 / 300万円 ● 従業員数 / 14名
● 営業品目 / 米菓等の製造販売、観光土産品の卸売

